7月1日
(月曜日)
昭和43年
振替口座番号 東京41496
定価一ヵ月500円 一部10円

慶應義塾新聞
THE KEIO PRESS

©慶応義塾新聞
慶応義塾大学新聞会
東京都港区三田2－15－45
慶応義塾大学内 (452) 1561
発行人兼編集者 飯田 惠

毎月刊 (1日・15日)
(105)

スト権、決議されず

7月5日 全塾学生大会

米軍原潜入港阻止塾生大会の学生による議事妨害等があり、七月五日(金)午後七時予定の三田講堂教室で行われ、約一千人余りの友がここに結集した。現代時間に遅れること一時間半、三田講堂教室は満員の学生で埋まった。しかし、会場の雰囲気は、一部の学生が、「塾長が学生大会を開催するのは、ストライキ権確立の為である」と、ストライキ権確立の為の学生大会であるとの主張をくり返し、議事の進行を妨害したため、学生大会は

各所にまきおこる 自己統治の萌芽

米軍資金拒否闘争 今こそ「自治」の復権を

昨年の六月頃になり、問題に関係のある学生達が、はっきりのめり込み始まるに、米軍援助金問題に関連して、拒否闘争として発展してきつつある。そして、月間、三千余名集会有志の学生会は、ストライキ体験しようとしてきた。スト権獲得までの数日の間に機運の盛は数の数段の学生に対する投票以外の何ものでもなかった。しかし、我々は我々が自然の相互関係の根源を信頼関係の中に意識できる社会の中に問題を提起した。われわれの側に、至るまでの過程で、既に問題がもたらされ、クラブ対ヒ対ヒ、問題の中に目以下、相談会にしたるの理解を得ようとしてきた。そこでたとえ、ちょっとはなければならぬのは、横暴銀行の中の数段の学生会を提起しておいた。そして何を解決するか、学生の意識を問題の中に意識されている。その各クラブの中で学生は問題を提起し、学生の意識を問題の中に意識されているのである。そこに、われわれの問題の根源を信頼する小さな大学社会、問題の自治の中に意識されている。そして何を解決するか